

## 農林水産部

仕事の  
窓

2

# 沖縄総合事務局配置の

## 水産庁漁業取締船3隻体制が確立

Point

沖縄県周辺海域の漁業秩序の安定を図るために活動中の3隻の漁業取締船を紹介します。

沖縄周辺海域はクロマグロの産卵場となっているため、台湾漁船による違法操業が多発し、我が国漁船との間で操業トラブルも発生しています。

台湾漁船は、我が国排他的経済水域（EEZ）内での操業ができる許可を有していない、いわゆる無許可操業船であることから、「排他的経済水域における漁業等に関する主権の権利の行使等に関する法律」に基づき、我が国EEZ内から排他するとともに、悪質な漁船については拿捕しているところです。

このような日本側の取締姿勢に対し、台湾側は行政院海岸巡防署の巡防船による台湾漁船の保護に乗り出したため、台湾漁船の行動が過激化するなど、沖縄周辺海域における取締りを巡



●いせはま

総トン数：499トン  
全長：64.59m  
最大速力：17.09ノット  
乗組員数：16名  
船籍：宮城県気仙沼市



●海星丸

総トン数：499トン  
全長：64.63m  
最大速力：16.56ノット  
乗組員数：17名  
船籍：熊本県天草市



●洗星丸

総トン数：499トン  
全長：64.71m  
最大速力：18.2ノット  
乗組員数：16名  
船籍：東京都

る情勢はますます厳しさを増しています。

また、近年、北緯27度から28度付近の海域で、中国及び韓国の漁船が多数操業するようになったことから、漁業取締船はより広範囲に行動することが不可

欠となっています。

このため、林務水産課では平成19年度から漁業取締船の配備をこれまでの2隻から3隻体制にするるとともに、対応する漁業監督指導官及び漁業取締係長を増員し、外国漁船に対する取締

体制の一層の強化を図っています。

そこで、現在、沖縄総合事務局に配備され、沖縄県周辺海域の漁業秩序の安定を図るために活動中の3隻の漁業取締船を紹介し